リストラ反撃集会を開催しました

ルネサス懇

「指名解雇」リストラに反撃　あらゆる手段を用いて対抗する

ルネサス「指名解雇」リストラ対策本部は、１月２６日に東京都内某所およびオンラインで、「ルネサス「指名解雇」リストラ、定期昇給見送りに反撃する集会」を開催しました。

ルネサス懇からは、リストラについての基調講演を行いました。第一部では現状と今後の展開予測を、第二部ではどのように対抗していくかを論じました。質疑応答では、会場から多数の質問や意見が寄せられ、議論が盛り上がりました。

電機・情報ユニオンは、これまでリストラに遭った個人の救済のための団体交渉を多数行ってきています。しかし１月６日に会社に申し入れたのは、全労働者に深刻な影響を及ぼすリストラそのものの撤回を求める交渉です。

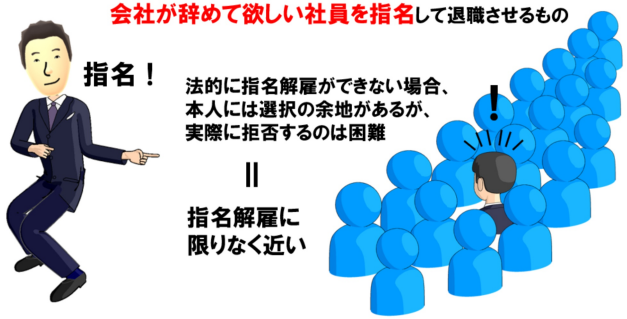
集会では、この団体交渉を通じてグローバルなルールに基づき追求していくほか、関連省庁や公的機関への働きかけ、株主総会での追求、集会や学習会、情宣活動等、あらゆる手段を用いて対抗していくことを確認しました。

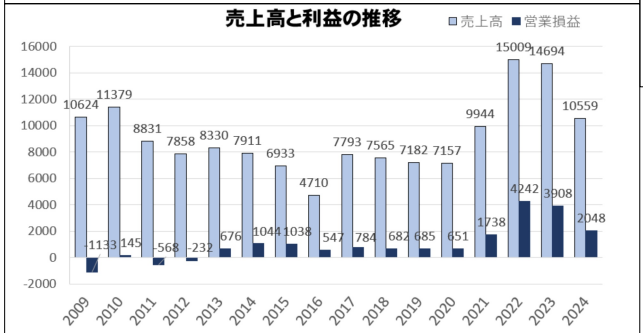
＜発行者＞
ルネサス関連労働者懇談会（ルネサス懇）
意見と情報は、
〒142-0043
東京都品川区二葉2-20-8染野ビル（電機労働者懇談会気付）
(03) 6421-5323

電機・情報ユニオンへの相談は、

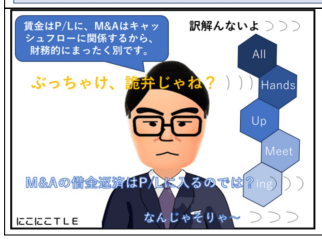
「指名解雇」リストラとは

いわゆる希望退職ではなく
会社が辞めて欲しい社員を指名して退職させるもの





2012年の大リストラ以降、黒字経営に反転した。以降、12年にわたって大幅黒字を継続している。しかし稼いだ資金はM＆Aにつぎ込み、従業員への還元が不十分であるばかりか、人員削減を繰り返しお見舞いしている。

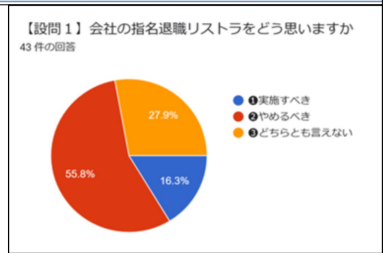
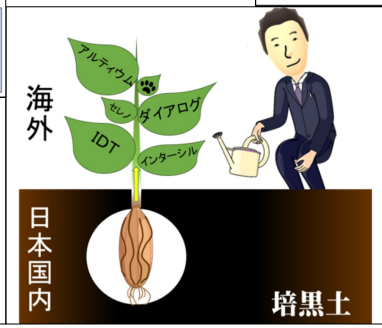


M＆Aに大金をつぎ込みながら、賃上げをしない姿勢について新開CFOから意味不明な説明。

団体交渉による現状打開

＜１月６日の記者会見の模様＞

共同通信社の記事

【2025 年 1 月 6 日共同通信社】
ルネサスに団交申し入れ　電機・情報ユニオン
産業別労働組合「電機・情報ユニオン」は６日、半導体大手ルネサスエレクトロニクス（東京）が人員削減や定期昇給の見送り方針を示しているとして、同社に対し、撤回を求め、１月中に団体交渉に応じるよう申し入れた。
６日、都内で記者会見した労組の米田徳治特別執行委員は、同社は優良企業だとして「リストラする必要はない。なぜこんな扱いをするのか」と述べた。　申し入れ書は、今回の方針が「全社員に重大で深刻な影響を強いる」と主張し、方針の撤回を求める内容だ。柴田英利社長の退交への出席も求めた。

1月6日に会社に団体交渉の申し入れを行い、午後には記者会見を行った。しんぶん赤旗や共同通信社が報道、共同通信の記事は多数の地方紙によって拡散され、これによって、「指名解雇」リストラの事実が広く社会に知れ渡ることとなり、リストラを隠匿しようとする会社の思惑にくさびを打ち込むことが出来た。